341649-F

＊＊ 使用の前に本電子化された添付文書をよく読むこと。

＊＊2023年 5 月改訂（第6版）
＊2020年 8 月改訂（第5版）

体外診断用医薬品

承認番号	21800AMX10400000

アルファ1－マイクログロブリンキット

LZテスト‘栄研’α1－M

【全般的な注意】

1．本製品は体外診断用医薬品であり、それ以外の目的には使用できない。
2．診断は、本製品による検査結果のみで行わず、他の検査結果や臨床症状を考慮して総合的に判断すること。
3．添付文書に記載された内容に従い使用すること。それ以外の方法についての保証はできない。
4．使用する自動分析装置の添付文書及び取扱説明書をよく読んでから使用すること。

【形状・構造等（キットの構成）】

1．試薬－1
　緩衝液
　　グッド緩衝液　50 mmol/L

2．試薬－2
　ラテックス試液
　　抗ヒトα1－M抗体感作ラテックス液※1　50 vol％

※1 抗ヒトα1－Mマウスモノクローナル抗体感作ラテックス液の略

【使用目的】

血清中、血漿中又は尿中のα1－マイクログロブリン（α1－m）の測定

【測定原理】

本製品は、ラテックス凝集反応を応用し、自動分析装置に適用した光学的測定法である。

ラテックス粒子表面に抗α1－M抗体を感作させたラテックスは検体中のα1－Mと反応することにより凝集する。この凝集は、所定の波長においてα1－M濃度に依存して濁度変化量が増加する。

既知濃度の別売標準により検量線を作成し、検体中のα1－M濃度を求める。

【操作上の注意】

1．測定試料の性質・採取法

1）試料（検体）は血清、血漿又は尿を用いる。
2）検体は通常の方法で採取した後、新鮮なうちに測定を行う。
3）検体を長期保存するときは、－20 ℃以下で凍結保存すること。（凍結融解の繰り返しは避ける。）
4）凍結保存した検体を使用する場合、室温にて融解後、検体を転倒混和してから測定する。
5）フィブリンが析出しやすい透析血清検体においては、あらかじめ取り除いてから測定すること。
（尿検体に沈殿物が認められる場合には、一定時間静置し、その上清を検体として測定すること。）

2．妨害物質・妨害薬剤

血清及び血漿系：抱合型ビリルビン（20 mg/dL），遊離型ビリルビン（20 mg/dL），ヘモグロビン（500 mg/dL），乳ビ（ホルマジン濁度 2,000 度），リウマチ因子（500 IU/mL），並びに抗凝固剤としてフッ化ナトリウム（1,000 mg/dL），EDTA・2Na（500 mg/dL），クエン酸ナトリウム（1,000 mg/dL），ヘパリンナトリウム（50 mg/dL）について社内で検討した結果、測定値への影響は認められなかった。

尿　系：グルコース（2 g/dL），塩化ナトリウム（3 g/dL），アスコルビン酸（200 mg/dL），ヒト血清アルブミン（1,000 mg/dL）について社内で検討した結果、測定値への影響は認められなかった。

【用法・用量（操作方法）】

1．試薬の調製方法

試薬－1：緩衝液をそのまま使用する。
試薬－2：ラテックス試液をそのまま使用する。

2．必要な器具・器材・試料等

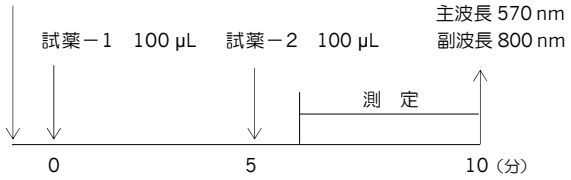
別売の標準を別途用意する。
（血清・血漿中α1－M測定用　LZ－α1－M標準S‘栄研’）
（尿中α1－M測定用　LZ－α1－M標準U‘栄研’）

3．測定（操作）法

自動分析装置を用いて測定を行う。
各種自動分析装置への適用については別途資料を請求する。

〔 7180形日立自動分析装置による測定例 〕

血清又は血漿検体 2 μL あるいは尿検体 6 μL



＜測定にあたっての注意＞

1）ラテックス試液は、測定前に軽く混和してから使用すること。
2）検体の液面に気泡があると測定誤差の原因になるので、測定前に取り除くこと。
3）検体中にフィブリンが認められるとサンプルノズルが詰まる原因になるので、測定前に取り除くこと。
4）検体濃度が測定範囲を超えた場合は、生理食塩水等で希釈して測定をやり直すこと。
5）検量線は測定日毎に作成すること。また試薬のロットが変わる場合には必ず検量線を作成し直すこと。
6）他項目と同時測定する場合には、その相互干渉に十分注意すること。

【測定結果の判定法】

基準範囲[1]：血清検体：　9.7 ～ 19.9 mg/L（成人）
　　尿検体：男　0.8 ～ 14.1 mg/L（成人）
　　女　0.5 ～ 7.0 mg/L（成人）

＜判定上の注意＞

1）ＩｇＡ濃度が高値の検体では、α1－マイクログロブリンの測定値が変動する場合もある[2),3)]。
2）異好性抗体の存在又は非特異的蛋白の結合により、極めてまれに測定値に影響を与えることがある。

【性 能】

1．性 能

1）感 度

α_1−M濃度 0 mg/L と 0.4 mg/L の標準液を測定するとき、0.4 mg/L の吸光度変化量の平均値−2.6SD は、0 mg/L の吸光度変化量の平均値＋2.6SD よりも大きい。

2）正確性

既知濃度の管理用検体を測定するとき、得られた値は、表示値の±15 %以内にある。

3）同時再現性

同一検体を 10 回測定するとき、得られた値の変動係数（C.V.）は 10 %以下である。

2．測定範囲

血清及び血漿検体 ： 1.2 ～ 180 mg/L
尿検体 ： 0.4 ～ 60 mg/L

3．相関性試験成績

1）他法との相関

比 較 対 照	検 体	例 数	相関係数	回 帰 式
ＬＸ試薬 ‘栄研’ α_1−Ｍ−Ⅲ	血 清	100	r=0.998	y=0.973x−1.09
	尿	100	r=0.998	y=0.945x−0.73

（y：本法，x：他法）

2）血清検体と血漿検体の相関

測 定 方 法	例 数	相関係数	回 帰 式
ＬＺテスト ‘栄研’ α_1−Ｍ	55	r=0.995	y=0.993x+0.23

（y：血漿検体，x：血清検体）

4．較正基準物質に関する情報

伊藤らの方法[4]に従って精製したα_1−M純品 10 mg/mL の 280 nm における分子吸光係数：E=17.288 から換算して標準品の濃度を決定している。

【使用上又は取扱い上の注意】

1．取扱い上（危険防止）の注意

1）試料（検体）は、ＨＩＶ，HBV，HCV等の感染の危険があるものとして注意して取り扱うこと。
2）感染を避けるため、検査時は使い捨て手袋を着用すること。
3）口によるピペッティングはしないこと。
4）試薬が誤って目や口，皮膚に付着したときは、直ちに大量の水で十分に洗い流し、必要があれば医師の手当てを受けること。

2．使用上の注意

1）各試薬は指定の貯蔵方法で保存すること。
2）使用期限を過ぎた試薬は使わないこと。
3）キット内の試薬は正確な反応が得られるように組み合わせてあるので、製造番号の異なる試薬を組み合わせないこと。
4）開封後の試薬はキャップを閉めて指定の方法で保存し、なるべく早く使い切ること。
5）試薬の継ぎ足しは、たとえ同一の製造番号でも行わないこと。
6）本製品中の容器、付属品等を再利用又は他の目的に転用しないこと。

3．廃棄上の注意

1）検体に接触した器具や廃液等は、次亜塩素酸ナトリウム溶液（有効塩素濃度 1,000 ppm 以上，1 時間以上浸漬）又はグルタールアルデヒド（2 %，1 時間以上浸漬）による消毒処理、あるいはオートクレーブ（121 ℃，20 分間以上）による滅菌処理を行うこと。
2）検体が飛散した場合は、80 %エタノール等で拭き取りと消毒を行うこと。
3）試薬ボトルはポリエチレン（ＰＥ）、キャップはポリプロピレン（ＰＰ）、ケースは紙を主な材質としている。
4）使用後の試薬や容器及び器具類は、医療廃棄物等に関する規定及び、水質汚濁防止法等の各種規制に従い、各施設の責任において処理すること。

【貯蔵方法・有効期間】

貯蔵方法 ： 2～10 ℃
有効期間 ： 1 年間

*【包装単位】

製 品 名	包装単位※2	適用機種例
ＬＺテスト‘栄研’ α_1−Ｍ	20 mL×2	日立 7180 ＡＵ680 ＢＭ6050 TBA120FR
	20 mL×1	
	20 mL×2	日立 LABOSPECT
	20 mL×2	キヤノン c シリーズ

※2 本製品には試薬−1 及び試薬−2 が入っているが、包装単位欄には試薬−2 の容量を記載している。

＊＊その他の包装単位につきましてはお問い合わせください。

【主要文献】

1）徳山 昌司郎：医学と薬学, **39**：835−844, 1998.
2）伊藤 喜久：検査と技術, **16**：658−660, 1988.
3）伊藤 喜久：臨床検査, **32**：863−867, 1988.
4）Itoh Y. and Kawai T.：J. Clin. Lab. Anal., **4**：376−384, 1990.

【問い合わせ先】

栄研化学株式会社 お客様相談窓口
フリーダイヤル 0120−308−421

【製造販売業者の名称及び住所】

栄研化学株式会社
〒329−0114 栃木県下都賀郡野木町野木 143 番地

製造販売元 栄研化学株式会社
栃木県下都賀郡野木町野木 143 番地